

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502298		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム厚宮館(1階)		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170502298-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 6年 2月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が、安全で安心した暮らしが出来るように、ユニット同士での交流や職員同士の情報の共有に努めています。医療法人が母体となっているので、協力医療機関と密に連携を図り、報告や相談することで入居者様の健康管理や体調変化への対応にも十分注意を払っています。新年会・お花見・夏祭り・紅葉見学・クリスマス会などの毎月の季節に応じた行事を開催しておりますが、現在は新型コロナウイルスの蔓延状況を鑑みて、外出行事はすべて自粛致しております。しかし、そんな中でも職員が知恵と工夫を凝らし、入居者様の笑顔に出来るべく様々な企画で取り組んでいます。昨年は職員が中心となり、2ユニット合同で「手打ちそば」のイベントを行い、入居者様にも手伝っていただき、大変な盛り上がりでした。初めての企画でしたが、近いうちにまたやってほしいとの声もあり、今後も定期的に開催したいと考えています。コロナウイルスが始まってからこの間、感染対策を職員が一丸となって取り組みを継続しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最寄りのJR駅から徒歩圏内でバス停からは至近にある住宅街に位置しています。近くには遊歩道があり、お弁当を持って訪れたり、また、桜並木を見ながら散歩するなど安らげる環境下にあります。コロナ禍により外出行事の企画は困難ですが、それに代えて多様な食事作りが行われています。3種類の鍋パーティーは、利用者の食欲がいつにも増えています。テイクアウトで寿司屋やビザ店の雰囲気を出し、利用者と一緒に好みのハンバーガーを作っています。家族に届けている事業所便りには、数多くの食事風景や日常の様子、誕生会や季節行事の様子を載せています。職員は、利用者と一緒にできる時間を作り、何を望んでいるかを聞き取ったり推し量るなど、幸福度が上がる支援に取り組んでいる「グループホーム厚宮館」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果 グループホーム厚宮館(1階)

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げユニット内掲示し、それを見る事で各職員の意識付けを行い、それを共有して実践につなげている。	理念は、利用者の自立支援、家庭的な環境づくり、地域活動の参加支援を謳っており、実践に努めてきましたが、コロナ禍により地域活動は自粛しています。管理者は、職員と理念の見直しを考慮しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度も新型コロナウイルス・インフルエンザ感染防止の為、外部の方との交流機会を設ける事が出来ておりません。	地域交流は、町内会長と話し合い相互に自粛状態にあります。町内会活動の資源物回収に協力し、介護相談を受け入れています。運営推進会議には町内会関係者の出席を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は新型コロナウイルス感染防止の為、運営推進委員会の開催時のみ交流を設ける機会としております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度からフロア常駐職員も対面式の開催となった運営推進会議へ出席し、意見交換や情報発信を行っている。	会議は、複数の町内会関係者、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て、定期的に開催しています。利用者や職員状況、活動内容、事故報告の有無、グループホームの特徴と認知症について等を報告後に、推進委員から意見や感想、情報等を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	館長・管理者が行政との対応を行っており、直接職員が関わることがありませんが、時にそのサポートを行っております。	行政との関わりは管理者が担い、良好な運営に繋がっていますが、案件によっては法人本部に委ねることもあります。ケースワーカーや介護保険認定調査員の来訪時は情報交換が行われ、利用者の安定した生活を支援しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ企業内で、四半期ごとに各グループホームの代表者が集い、「身体拘束適正化委員会」を開催しており、その結果を文書化した物を各ユニットの全職員で回覧する事にしている。更に、本部研修事業部開催の研修会に経験値別に職員が定期的に参加し研修を受けている。	年4回、法人主催の適正化委員会に出席した職員の伝達で身体拘束をしないケアの周知徹底を図っています。年2回の研修会では、感想文の提出で職員の理解力を把握しています。管理者は、何気ない言葉が不適切になる可能性があるなど、職員に助言をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主催の「虐待防止委員会」に館長・管理者が参加し、その委員会の資料を全職員に回覧し研鑽を積んでいる。また、ユニットカンファでも日常の入居者への関わり方について確認と検討を重ねています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	館長が中心となり、入居者の中で身寄りがいない方についてすべての方に成年後見人を立てている。後見人とは定期的に連絡をとりあい、近況報告したり、面会の機会を設けるなど家族同様の対応をして、入居者の生活保全に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	館長・管理者が業務を行っており、直接職員が関わることがありませんが、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時あるいは入居後の生活の中で、本人から意見や要望などを聞き取ることを心掛けている。また、館長や管理者は、家族様から入居前後や面会時・あるいは電話連絡の際に、意見や要望を伺う事を心掛けている。	毎月、家族に郵送している事業所便りには、食事風景やレクリエーションでの作品、行事や日常の様子等を写真に収め、編集後記と個別に担当職員からのメッセージが載っています。利用者や家族からの要望には、可能な範囲で応じています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のユニット会議、又は、不定期に行われる館長や管理者と職員の面談により意見交換を行っており、その内容を出来るだけ運営に反映できるよう努力しています。	利用者との関わりから気付いた事を、申し送りや会議等で情報を共有し解決に向けた対応を検討しています。管理者による都度の面談等でも、職員は意見や個人的な要望等を伝え、ケアの充実や職場環境の整備に生かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の実績等を把握し、年度末に行われる契約更新の面談時にも意見・要望など交換する事により環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループ内外研修を受ける機会を設けており、研修後に全職員に資料の回覧や伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は新型コロナウイルス感染対策として行っていないが、法人グループ外の同業者との交流や研修の機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	館長・管理者とユニットリーダー以上の対応になりますが、事前にご家族様、本人様と入居前面談を実施し、要望、希望、不安点等の聞き取り、吸い上げを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、ご家族様や本人様と入居前面談を実施し、家族等が困っていること要望、希望、不安点等の聞き取り、関係づくりの構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に、ご家族様や本人様と入居前面談を実施し、本人と家族等が必要とする支援の見極め、他のサービスも含めてケアプランを作成し、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする者として、また尊厳を重視しての関わりを持ち、支え合う関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と定期的に連絡を取り、情報共有に努めながら面会の機会を多くとれるよう支援しながら双方に寄り添う努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様又は交流先の方に人間関係を維持しようとする意志がある場合は、可能な限り支援を行っている。	面会の自粛が解除され、家族や昔馴染みの人々が訪れています。家族の支援で久しぶりに自宅で過ごしている利用者もいます。電話の取り次ぎやオンライン面会も実施し、大切な人や場所との関係維持に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様同士の人間関係に注意しつつ、良好な関係が築けるよう様々な面で支援できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に連絡があり、行政的な手続き相談などが稀にあるが、可能な範囲で協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望や意向に耳を傾け、可能な範囲で実現できるよう努めている。	利用者の要望は会話から把握していますが、意思の疎通が難しいときは、利用者のふとした動きや何気ない言葉から推し量り、思いが叶えられるよう職員間で検討しています。最期を何処で過ごしたいかを聞き取り、記録に残しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様との会話やご家族様からの聞き取りから生活歴などを確認し、サービスに生かしている。又、定期的なカンファレンスの中で、ケアの達成状況などの振り返りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・排泄記録・送り表などの記録を中心として、入居者の状況把握に努めており、状況変化については、ケアプランにも反映するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際は必ず全職員からモニタリング意見を聞きとり、出来上がった介護計画をご家族様に口頭で説明し、ご家族様からの要望等が有ればそれを反映させた上で介護計画を立てている。	ケアプランは、更新時や利用者の状況に変化があった時に必要な支援目標を話し合っています。職員全員で現プランの評価や課題を分析し、利用者や家族の意向を踏まえ現況に沿ったケアプランを策定しています。	独自の書式で利用者の全体像が把握できていますが、より簡潔化した書式の整備を検討していますので、その実現に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・送り表・排泄表を個別に毎日記録し、その情報を共有し、介護実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な対応は実施出来ており、柔軟な対応に関しては日々の申し送りやカンファレンス時に、業務の見直しについて職員個々の意見を出し合い、状況に応じた支援の内容を決定している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度は新型コロナウイルス対策として地域ボランティア等との接触はないが、安全で豊かな暮らしを楽しめるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の他、本人及び家族等の希望を大切に、適切な医療が受けられるよう支援しています。	受診先は要望を尊重していますが、現在は、利用者全員が運営母体の医療機関による2週間ごとの訪問診療を選択しています。週1回訪問看護師による健康管理の体制を整備しています。他科受診は職員が同行し、受診結果は家族と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院による週一回の看護師訪問、二週間に一回の医師訪問で変化などを伝え相談し適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院との連携は良好であり、スムーズな対応ができており、情報交換や相談に努めている。また、提携病院以外での入院時は、その病院の連携室と情報交換をしながら対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の医療体制指針を取り交わしております。実際としては、可能な限り入居様や家族様から聴取した意向を尊重して医療機関と連携し、終末期の支援を行っております。	入居時に、重度化や看取りの対応を指針で説明して同意を得ると同時に、看取りへの意向を確認しています。現在まで看取りの経験はありませんが、事業所で対応できるぎりぎりまで尊厳ある支援に努め、状態悪化時は、母体の医療機関に生活の拠点を移しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを準備し、各職員が熟読しております。救命研修等の実施しており、緊急時に対応できるように心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時用緊急マニュアルを作成している。定期的に避難訓練を実施しており、緊急時に対応できるように心掛けている。	ハザードマップを備え、事業所周辺の危険箇所を確認しています。新人職員や夜勤専従職員を優先に、年2回日中・夜間帯に地震を含む火災を想定した避難訓練と災害時の入浴などケア場面での対処法にも取り組んでいます。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声がけについて、日頃から職員同士で注意しあう体制としている。プライバシーの確保についても、本人らしさを維持できるよう支援している。	職員は、接遇研修をビデオで視聴し、適切な接遇のあり方を学んでいます。伝達時は個人名を出さず、個人記録の取り扱いや入浴時などの対応も十分に配慮して行っています。職員間でも注意をし合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や自己決定出来るような環境作りを職員全員が心掛けており、入居者が何時でも相談できる雰囲気作りも行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	本人の希望に添い日によって、個々の趣味活動やアクティビティなど自由にして過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には、その人らしさを重視し、能力に応じた支援を行っている。また、定期的な訪問美容室を利用し、本人・家族の希望に合わせた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かし、食材の下準備や片付け、おやつ作りに参加し食を楽しめるよう支援している。	業者から献立と食料が届いています。時には注文を止めて、菜園の野菜やテイクアウトなども活用し、利用者の要望が多い焼き肉や鍋物、カレー、餃子、ハンバーガー、行楽風弁当、お好み焼きなどパーティーと銘打って利用者と一緒に楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考え、食べる量・水分量は職員がチェックし、少ない場合は声掛けし摂取できるよう促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人の能力、状態に合った口腔ケアを見守り又は一部介助にて実施している。また、訪問歯科にて口腔ケアも希望により行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄の自立にむけた支援を行っている。	半数程の利用者は自力でトイレに向かっています。尿意や便意があれば、2人介助も行いながら羞恥心に配慮してトイレに誘導しています。布下着や衛生用品の着用は、一人ひとりの状況に合わせて対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示の元、下剤の調整や運動などの働きかけを行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の意向やその日の体調を考慮しながら、時間や日程調整を行いご本人が表情良く、楽しんで入浴できるよう支援しています。	毎日入浴できる態勢にありますが、午後から週2～3回を目安に出来ない部分を支援しています。リフトも利用しながら全員が湯船の中で温まっています。歌や本音、昔話を聞くことができ、ケアプランに反映することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイル管理しており、その内容について全職員が把握できるようにしている。服薬に関しては、セットの段階から与薬まで複数の職員が関わる体制作りをして、誤薬防止につなげている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、役割や楽しみごと、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度はコロナウイルスやインフルエンザ感染防止の観点から近隣への散歩程度の外出にとどめている。	コロナ禍以前のような外出は難しいですが、お弁当を作って近くの遊歩道を散策したり、桜並木を見ながらの散歩で外気に触れています。今後に向け、外出行事の実現を模索しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が金銭管理をしている入居者様は家族了解のもと現在在籍しておりません。買物希望がある場合は、職員が代行して行っており代金は施設の立替えて、後日家族請求としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やオンライン面会など、ご家族様や入居者様本人の希望に沿った交流方式を用意している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のイベントに因んだ飾りを入居者様と一緒に作り、フロアの装飾をして、心穏やかに生活できるよう工夫している。	利用者の半数近くは、殆どリビングで過ごしています。季節飾りのひな壇が華やいだ雰囲気を出しています。その中で利用者はゲームやマージャン、囲碁、塗り絵、カラオケなど、自分のペースで楽しみごとを見つけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席の配置については、出来る限り気の合った人同志で座れるよう考慮し、定期的にその見直しを行い、過ごしやすい環境を保てるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に個人の家具や寝具、身の回り品は入居前からご利用いただいている品物をそのまま持ち込んでお使いいただいている。	利用者は、馴染みの生活用品や仏壇等を持ち込み、レクリエーションでの作品や家族写真等を飾っています。利用者にとって安らげる居場所であるよう、状況により配置換えを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お手洗いの場所など案内板を絵柄で分かりやすく示すなど工夫している。		